

# 第二章活用事例

「天然痘とたたかう」― 指田 鴻齋 ―

小学校五・六年生版

「心たくましく」 p.64  
「自然痘とたたかう」 p.71

## 【主題名】 かけがえのない生命

第五学年及び第六学年 3-11

「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」

## 【ねらい】 生命のかけがえのないを自覚し、自他の生命を尊重して大切にすることを育む。

《ねらいとする道徳的価値について》五・六年生の時期の児童は、生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができます。また、様々な人々との支え合いの中で一人一人の生命が育まれることも分かります。人間の誕生の喜びや死の重さ、生命の尊さ、共に生きることの素晴らしさを考えることを通して、自他の生命を尊重する心情を育むことが大切です。



「江戸時代の終わりから明治時代にかけて活躍した医師の指田鴻齋さんを紹介します。」

- 「心たくましく」<sup>p.70</sup>の写真を掲示し、「赤ひげ先生」と村人に慕われた医師であったことや、鴻齋の生きた時代に医師となり天然痘治療に取り組むことがどれほど大変なことであったかを伝えましょう。
- 「心たくましく」<sup>p.65</sup>の注射器具の写真を見せ、時代背景・社会状況・天然痘について分かりやすく説明することで、資料への興味をもたせましょう。

○教師が「天然痘とたたかう」を読み聞かせましょう。



「鴻齋はどのような気持ちで、『やす、目を開けておくれよ。』とやすに声をかけたのでしょうか。」

- 妹を亡くしてしまった鴻齋の気持ちを深く考えさせましょう。悲しみだけでなく、妹を助けることができなかったやるせない思いなども引き出し、死の重みについて考えさせましょう。



「村を出て江戸の町医者になり入りをした時、鴻齋は、どのような気持ちだったのでしょうか。」

- 「一人でも多くの命を救いたい。」という鴻齋の強い思いに焦点をあて、鴻齋が、生命に対してどのような思いをもっていたのかを考えさせましょう。

### 中心発問

「元気に遊ぶ子供たちを笑顔で見つめている時、鴻齋は、どのような気持ちだったのでしょうか。」

- 幼くして亡くなった妹の姿やその時の思いを振り返らせながら、鴻齋の喜びや達成感を捉えさせましょう。

《評価》 鴻齋の気持ちを通して、生命のかけがえのないさについて考えを深めることができたか。



「人の生命を救った人の話を知っていますか。その話についてどのように思いましたか。」

- ワークシートを用意し、記入させてから発表させましょう。全体で発表させる際には、個人的な情報に配慮しましょう。

- 「心たくましく」<sup>p.20</sup>の兼好法師のこぼれ話を読み、授業のまとめとしてしましょう。

- 「3・11を忘れない」<sup>p.58</sup>の、「これからの自分」という小学校五年生のメッセージを紹介し、自他の生命を尊重して生きようとする思いや願いを伝えてもよいでしょう。

## 板書例

天然痘とたたかう ― 指田 鴻齋 ―

指田鴻齋の写真

鴻齋が使用した注射器具の写真

鴻齋はどのような気持ちで「やす、目を開けておくれよ。」とやすに声をかけたのでしょうか。

- 治ってほしかった。どうして妹が死ななければならぬのか。
  - どうして、助けてあげることができなかったのだろう。
  - 妹の命をうばった天然痘がにくい。
- 村を出て江戸の町医者になり入りをした時、鴻齋は、どのような気持ちだったのでしょうか。

- 天然痘治りょうの知識や技術を身に付けたい。
- しっかりと学んで立派な医者になろう。
- 一人でも多くの人の命を救いたい。

元気に遊ぶ子どもたちを笑顔で見つめている時、鴻齋は、どのような気持ちだったのでしょうか。

- 自分の妹は救えなかったが、たくさんの子どもたちを天然痘から救えてよかった。
- 医者になって、人々の命が救えるようになってよかった。
- これからも、人々の命を救っていこう。
- 元気で生きているということは、何てすばらしいことだろうか。

人の生命を救った人の話を知っていますか。その話についてどのように思いましたか。

- 事故や災害におそわれた人々を、必死に救助しようとしている人たちの姿をテレビで見た。命を救おうとしている人たちを見て、毎日を大切に生きていこうと思った。
- 自分の命を投げ出して人の命を救った人の話を聞いた。同じことはできないかもしれないが、自分の命も周りの人の命も大切にしていこうと思った。

《評価》 生命の大切さについて考えることを通して、生命のかけがえのないを自覚し、自他の生命を尊重して生きようとする心情を育むことができたか。

終末

展開

導入